

12	IADL	・調理：元々習慣がない ・服薬：自立 ・掃除：元々習慣がない ・洗濯：元々習慣がない ・整理・物品の管理：妻（店や町内会の仕事での管理はしていた） ・金銭管理：家のことは妻 ・買い物：元々習慣がない（店をやっていたときは仕入れはしていた。）
13	認知機能や判断能力	特になし
14	コミュニケーションにおける理解と表出の状況	視力：老眼のため、眼鏡を使用しはじめた 聴力：普通の声で応答 意思疎通：会話に問題なし
15	生活リズム	朝、定期的に起き、食事後散歩に出る。午前中は自宅内で過ごすことが多い。毎日入浴し 21 時には就寝するが、夜中 2 回くらいはトイレに起きる。
16	排泄の状況	尿意・便意あり 日中 5 ～6 回、夜間 2 回、排便は 2 ～3 日に 1 回
17	清潔の保持に関する状況	洗濯・衣類などの管理・調整は妻がしている。料理人だったこともあり、衣服や整容は現在も整っている。
18	口腔内の状況	口腔の状態：齲歯、痛み、出血なし。義歯洗浄は自分で実施（義歯洗浄剤・歯ブラシ使用）。1 回目の退院から定期的な歯科受診をはじめ、12 月に新しい入れ歯ができ、食事に支障はない。
19	食事摂取の状況	食形態は、入院中と同じように、主食・おかずともに柔らかめにしている。好き嫌いはないが刺身が好きである。毎食中・後にお茶を 2 杯（計 500ml × 3 ）は飲む。朝も新聞を読みながらお茶を 1 杯飲んでいる。居間にて摂取。
20	社会との関わり	令和 6 年 6 月末ごろに人退院してから体力が戻り、商店組合にお祭りの委員として、いろいろ手伝いに奔走していた。もともと人とかかわりや話をするのが好き。商店組合（町内会）に仲間がいる。また、若い人にも頼られている。面倒見がよかった。
21	家族等の状況	主介護者：妻 家族の状況：長男は、他県在住で店を経営しているため、介護は望めない。しかし、父のことを思っており、本人は頼りにしている。長女も、他県在住で夫の両親と同居、小学生の子ども 2 人の世話をしている。日常的な介護は望めないが、今回の入院に際して、積極的に T 氏と妻の介護に携わっている。本人、妻ともに、子どもたちには迷惑をかけたくないと言っている。本人をはじめ家族は、2 回目の入院について、その後の生活に不安をもっている。 周囲のサポート：日頃より地域とかかわりがあるため、見守りや声かけなど頼める関係性がある。
22	居住環境	住宅、持ち家。もともと、寿司屋であったため続きの奥の 1 階で生活している。子ども部屋だった 2 階は使用していない。子どもたちが帰ってきたときのみ使用している。店を閉めるときに、ある程度バリアフリー化しており、浴室やトイレ、玄関には大きい段差はない。ベッド使用。トイレは洋式。隣の家との間隔がなく、日当たりはいいほうではない。窓を開けてもすぐ隣家であり、風通しはあまりよくない。灯油代の高騰が気になってあまり暖房を使用していないとのこと。

23	その他留意すべき 事項・状況	特になし
----	-------------------	------

※住宅の見取り図（必要に応じて）

